

## 第8回 貧困の連鎖対策研究会 議事録

日 時：2018年4月9日（月）午後3時～5時

場 所：第2750地区ガバナー事務所

1 矢部雅文 様（社会福祉法人成光福祉会理事長 兼 児童養護施設成光学園園長、座間ロータリークラブ）講演 「児童養護施設の現在と課題」～児童の自立と学習支援の必要性について～

私が園長を務める児童養護施設成光学園は定員75名。2才から高校卒業（18才）までの子を預かっています。今は、就学前の子ども達がいる幼児寮（定員20名）には10名が生活していて、小学生以上は満員です。小さい子どもを受け入れる施設は多いものの、中高生となると積極的に受け入れる施設は少なくなります。というのも、中高生が入って来ると施設内の生活に一時的に乱れが生じてしまうのです。ただ、一緒に生活する子どもの数が多ければ、自分と境遇が似た子や波長の合う子と出会うことが可能なので、我々は他の施設が苦手としている高年齢児を受け入れるようにしています。

神奈川県の場合、子ども達は児童相談所を経て入ってくる子が多く、ほぼ全員が何らかの虐待を受けた子どもです。我々の施設には常勤のカウンセラーが2名、非常勤が3名あります。同様の施設の中では多い方だと思うのですが、大きな団体の中で似たような境遇を持つ子ども達が一緒に生活すること、波長の合うカウンセラーとやり取りをすることで、子ども達の心が回復するよう努めています。

そして私たちの施設ではボランティアを積極的に受け入れていて、子ども達には良い人ばかりではなく、前科のある人たちも会わせるようにしています。私が保護司をやっている関係で、横浜の保護観察所の更正プログラムの一つである社会貢献して更正させようというものを行いました。犯罪歴のある人は社会的に不

器用な人が多いのですが、子ども達と一緒に遊ぶことで、お互い自分を受け入れてくれたことを実感することができ、良い影響を生んでいます。与えられるだけではなく、自分からも何かを他人に与えられたということを双方が実感できるので、結果、お互いにプラスになる面白いプログラムだったと思っています。この更正プログラムは、全国的に認められて本庁でも動き出したのですが、残念なことに受け入れてくれる施設が無く、やっぱり高齢者施設での生活介助がメインになっています。虐待を受けた子どもが大人に与える影響力は大きくて、子どもが苦手な人も一度、子ども達と接していただければわかつてもらえると思います。

更に私は子ども達には一人でも多くの色々な職業の大人と関わらせるようにしたいと思っていて、人の根底は同じで信頼関係が築けるのだということも実体験してほしいと考えています。

現在の日本の問題は相対的貧困であり、第三者からは非常にわかりにくい。政府も6～7人に1人の子どもが貧困だと言っていますが、本当に国民がそれを感じているかというと疑わしい。施設に入る子で服がボロボロだとか、食べる物に困っているというような、貧困国にみられるような絶対的貧困の子はほとんどいません。ただ、施設を利用しなくちゃいけないレベルの子どもはまだまだいます。地方にもいると思いますが、都市部の方がそういった子どもを見つけやすいので、都市部でこういった声を上げていかないと、全国にいる相対的貧困の子どもたちが埋没してしまうのではないかと懸念しています。

政府は将来、子どもの数が減るから施設に入る子どもの数も減ると考えているようですが、そもそも今の大人や社会は子育てをする力が著しく落ちています。国が積極的に子どもを支援して貧困の連鎖を断ち切ることで、将来、生活保護受給者ではなく納税者にすることができる。先行投資と言いますか、国のお金で高校・大学に行くことができれば、納税者を増やすことにつながるという考え方にならないとダメなんです。ただ、今の行政には、子ども側に立った支援を行うの

は無理です。

貧困の連鎖を断ち切るために、私どもで行き着いた答えの一つに学習面での遅れがあると考えています。ざっくりですが、高卒と大卒では生涯年収が5千万円から1億円ぐらいの開きになると言われています。中卒ではさらに差が開きます。

「お金がないから大学はあきらめなさい」という確率は格段に上がる所以、こういった連鎖を止めるため、子ども達には中卒ではなく、高卒なり、その上の学校を目指とする学習支援活動を行っており、施設周辺の大学や専門学校から学生ボランティアの方々に来ていただいています。また、私の高校の先輩が隣駅で学習塾の経営を任せられていて、うちの子ども達もみてくれることになり、おかげさまで中学3年生7人全員が県立高校に合格しました。進学した子の中に中学3年生の2学期に施設に入ってきた子がいるのですが、母親は薬漬けで父親の姿も見えず、それまで完全に放っておかれても勉強もできなかった子が小学校の勉強から始めてなんとか間に合いました。子どもの底力というものは計り知れないです。

色々な巡り合わせがあって人との繋がりを実感しています。私どもの施設に学習支援の対象となる子ども達がいて、ここに勉強を教えてくれる人たちが集まってくれたことで上手くいっていますが、貧困状態にあって学校にも行けず、勉強ができない子ども達をどうやって集めるかはとても大きな問題です。地元で我々の施設は知られていますから「こういうプログラムをやるよ」と広報すると色々な家庭の子ども達が集まってきます。ただ、どこでもできるかというと難しい問題です。知らないおじさんが「勉強を教えてあげるよ」と中高生に言っても訝しめられるだけです。

2年前に私が副座長を務めた「かながわ子どもの貧困対策会議」で「子どもの貧困対策への新たな取り組みのご提案」というのを神奈川県知事に提言いたしました。横浜の高校生が自分たちの課題を分科会形式で討論し合う「子ども会議」というのをやっていて、最終的には神奈川県議会に議案として提案するプログラムなのですが、その中に子どもの貧困を取り上げた子がいました。当時の神奈川

県の担当者から私のところに子どもの貧困について問合せがあったため、私も加わって話をまとめさせていただきました。

施設外の貧困家庭の子ども達と接して感じたのは、教育が欠落しているということです。具体的には言葉の使い方、敬語や丁寧語を知らない。自分の思いを正確に伝えられず、手段も得られないために社会と距離ができてしまう。神奈川県の公立高校の上位校と底辺校ではかなり格差があり、貧困層の子ども達は底辺校に集まってくるのですが、中退率も高いのでこの部分をどう支えていくか考える必要があります。

施設の子もそうですが、高校を卒業後、進学するにも就職するにしても奨学金や賃貸など色々な契約が必要で、かつ保証人や連帯保証人も必要になるので、これをクリアすることがとても難しい。そのための後見制度などの確立を早く行ってほしいと思っています。

子ども達の貧困の連鎖を断ち切ることで、その子ども達は将来、生活保護者ではなく納税者にすることができます。国が子ども達に先行投資すれば、未来の納税者にすることができるのであるのにと考えるのですが、子どもは票を持っていないので、政治家に働きかけても優先度が低いように感じています。

以上

## 2 報告事項

- (1) 4月3日に聖フランシスコ子ども寮のバザーに参加しました。シスターとお話しして、お絵描きのお手伝いに行くことになりました。子ども達のために何かをしたいと考えている方は多いと思うので、有志を集めて子ども達と寄り添う時間を増やしていくべきだと考えています（宇佐美さん）。
- (2) 6月9日午後4時～豊田駅近くで、フードバンク主催のシンポジウムを開催します。貧困問題に取り組んでいる法政大の湯浅教授と近藤氏2名に講演していただきます（神山氏）。

### 3 次回

日時：2018年5月29日（火）午後3時～5時

場所：第2750地区ガバナー事務所

内容：都内各地区で行われている支援活動について各自調査結果を報告

以上